

## UIPパターンを示す膠原病の肺病変、慢性過敏性肺炎、 特発性肺線維症の画像的鑑別に関する検討

特発性肺線維症(以下 IPF)は、特発性間質性肺炎のなかの一型です。CT 画像所見で典型的な像を示すか、外科的肺生検による病理検査で UIP パターンを示し、その原因が不明であれば IPF と診断されます。一方、膠原病の肺病変や慢性過敏性肺炎でも病理検査で UIP パターンを示すことがあります。膠原病に合併する間質性肺炎では、時に肺病変のみが膠原病に先行して発症することがあり、また慢性過敏性肺炎では明らかに特別な吸入物質に気づかずにいる場合などには、IPF と紛らわしいことがあります。

今回、病理検査で UIP パターンを示す「膠原病の肺病変」、「慢性過敏性肺炎」、「IPF」を CT 画像のみから区別することが可能かを検討する研究を計画しています。

この研究は、厚生労働科学研究費補助金(難治疾患克服事業びまん性肺疾患に関する調査研究班分担研究費)のサポートを受け、国際医療センター画像診断科の酒井文和医師が中心となって行われます。公立陶生病院、浜松医科大学附属病院、神奈川県立循環器呼吸器センター、済生会熊本病院が共同研究施設となっています。

2007 年 11 月 1 日～2013 年 12 月 31 日に公立陶生病院にて外科的肺生検を受けられ「膠原病の肺病変」、「慢性過敏性肺炎」、「IPF」と診断された患者さんの CT 画像を収集し解析を行います。

この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが陶生病院呼吸器・アレルギー内科医師・片岡健介(電話 0561-82-5101)までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者:谷口 博之      公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 部長  
研究協力者:片岡 健介      公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 部長